

研修会報告

令和4年10月19日

文責：遺伝子・染色体部門長 青山 弥生

研修会テーマ「乳癌の遺伝子検査と臨床」

開催日時 令和4年10月15日（土）13:00～15:00

会場 Zoom ウェビナーによる Web 研修会

司会 東北大学病院病理部 小泉 照樹

生涯教育点数 専門教科 20 点

参加者 会員参加者 27名 非会員 1名 賛助会員 2名

講演1「ベンタナ DISH HER2 キットのご紹介」

ロシュ・ダイアグノスティックス株式会社 加藤 舞 先生

講演2「HER2-FISH の判定」

東北大学病院病理部 青山 弥生 技師

講演3「乳癌の遺伝子検査と臨床」

東北大学病院総合外科 講師 宮下 穰 先生

15:00 終了

内容

今回は病理細胞診部門と合同で、『乳癌の遺伝子と臨床』というテーマで開催した。病理検体を用いた遺伝子検査は必須となっているが、中でも HER2 遺伝子検査は最も多く施行されており、その評価と臨床応用についてと遺伝性疾患について知見を広げることを目的とした。

HER2 遺伝子検査には DISH 法、FISH 法などがあるが、講演1では DISH 法の検査キットを扱っているロシュ・ダイアグノスティックス株式会社様にキットの紹介をして頂いた。

DISH 法の普及はどのくらいか、との質問があり、近年増加傾向であるとのことであった。

講演2では、青山技師に FISH 法の判定基準とカウント方法について解説をして頂いた。

後半には、実際の画像を提示し、参加者に回答してもらう形式をとった。回答率は60%ほどだったが、実際にカウントすることで、理解を深めてもらうことを目的としたため正解率は問わなかった。

固定条件が染色に与える影響について質問があった。固定不良では全くシグナルがえられないことがあるため、固定条件についてしっかり遵守してほしいとのことであった。

講演 3 では、乳癌の臨床について宮下先生に講演して頂いた。

HER2 遺伝子発現とその他のマーカーによる治療戦略、遺伝性乳癌・卵巣癌症候群 (HBOC)、免疫療法についてお話しいただいた。また、未だ研究ベースではあるが、今後解析が必要となりそうな遺伝子についても紹介いただいた。検査に携わっているながら、その後のことを知る機会が少ない技師にとって大変勉強になる内容であった。

免疫チェックポイント阻害剤に対する検査は緊急性があるか、遺伝性疾患の場合のご家族へのフォローはどのようにされているか質問があった。遺伝性の場合には非常に取り扱いが難しいが、遺伝科との連携で進めているとのことであった。

今回の研修会は Zoom ウェビナーを用いた Web 研修会であり、宮城県外からも参加可能とのことであったが参加者は予想以上に少なかった。宮城県臨床検査技師会の会員が参加したいと思えるような研修会を企画し提供していきたい。